



令和6(2024)年度 入試問題 傾向と対策

国語	試験区分	マッチング入試(前期・中期・後期)[基礎学力型] 公募制入試(前期・中期・後期)[基礎学力型] 一般入試(前期・中期・後期)	
	試験範囲	「国語総合(古文・漢文を除く)」	
	問題数(概数)	30問	
出題内容 と 概要	大問1 漢字問題 (7問)	大問2 読解問題 (10問程度)	大問3 読解問題 (10問程度)
	短文中の傍線を付したカタカナに当てはまる、適切な漢字を選択。	2000字～3000字程度の長さの論理的文章を読み、文中の語句の意味や用法、各段落の内容、文章の主旨などについての設問に対する、適切な答えを選択。	2000字～3000字程度の長さの論理的文章を読み、文中の語句の意味や用法、各段落の内容、文章の主旨などについての設問に対する、適切な答えを選択または記述。(記述による解答は、一般入試後期においてのみ求める。)
	すべての常用漢字を習得しておきましょう。日本漢字能力検定協会が行っている「漢字検定」2級レベルの問題集などを用いて、「書き取り」「読み」「同音・同訓異字」の問題を中心に練習するとよいでしょう。「漢字検定」の受検を視野に入れた学習も効果的です。	日ごろから論理的文章に親しんでおきましょう。文章を繰り返し読むことで、文章の内容を把握する力がつき、論理展開も見えやすくなります。難しい語句はすぐに調べて疑問を残さないように読みすすめれば、語句についての知識も深められます。新聞をじっくりと読むのも、手近な対策として有効です。できれば、記事を書き写してみるとよいでしょう。	大問2と同様です。大問2も含め、文の構造や助詞・助動詞の用法などの口語文法の知識を問うこともあります。中学校用の問題集で復習すると、文法的知識の意外な弱点を見出せることも少なくありません。記述問題については、ひとまとまりの文章(雑誌のコラムや参考書の問題文等)のキーワードを探し、そのキーワードを用いて他者が読んでも分かりやすいと思える要約を書く練習をして対策をしましょう。
対策			

英語	試験区分	マッチング入試(前期・中期・後期)[基礎学力型] 公募制入試(前期・中期・後期)[基礎学力型] 一般入試(前期・中期)			
	試験範囲	「コミュニケーション英語I」 「英語表現I」 「コミュニケーション英語II」 「英語表現II」			
	問題数(概数)	40問			
出題内容 と 概要	大問1 文脈類推型語彙問題 (10問程度)	大問2 文法・語法・熟語(イディオム)に関する空所補充問題 (10問程度)	大問3 読解問題 (5問程度)	大問4 慣用表現に関する 選択問題 (5問程度)	大問5 空所補充型英作文 整序問題 (10問程度)
	20語～30語程度のダイアログもしくは英文を読み、文脈に最も適切な単語を選択。	時制、前置詞、関係詞などの文法項目、動詞の使い方などを含む語法、連語及び熟語(イディオム)の知識を空所補充の形式で適切な語句を選択。	500語～700語程度の文化・社会をテーマとした英文を読み、各段落の要点、詳細及び論理的展開について適切な選択肢を選ぶ。	ダイアログを読み、場面に適した慣用表現(会話表現)を選択。	和文を読み、空所を補うのに適切な語句を選択して英文を完成させる。
	選択肢の語句は意味を考えなければどれも形的に当てはめることができるので、問題となっている英文全体を読み、前後の文脈から最も適切と思われる語句を推察する力を養いましょう。日頃から英文を読むときに未知の単語を最初から辞書で調べず、文脈からその語の意味を推察する練習をするとよいでしょう。	マッチング入試及び公募制入試はコミュニケーション英語I及び英語表現I、一般入試はコミュニケーション英語I・II及び英語表現Iの範囲から、基本的な文法項目、動詞の語法、日常よく使われる熟語(イディオム)及び連語に慣れ親しんでおきましょう。	導入・本論・結論の文章構成を意識して読み、各段落のトピック及びそれを支持する詳細を把握する練習を通して、文章の論理的な展開をつかむことに慣れ親しんでおきましょう。	マッチング入試及び公募制入試はコミュニケーション英語I及び英語表現I、一般入試はコミュニケーション英語I・II及び英語表現Iの範囲から、会話に頻出する慣用表現に慣れ親しんでおきましょう。	大問2で述べた対策に加え、特に構文(例えば、強調構文、倒置構文など)の使い方に慣れ親しんでおきましょう。
対策					

数学	試験区分	マッチング入試(前期・中期・後期)[基礎学力型] 公募制入試(前期・中期・後期)[基礎学力型] 一般入試(前期・中期)		
	試験範囲	「数学I」「数学A」		
	問題数(概数)	15問		
出題内容 と 概要	数と式	集合と命題	図形と計量	2次関数
	複数の分野からの出題、空所補充・選択問題	集合、命題の分野からの出題、空所補充・選択問題	関連する小問集合、空所補充・選択問題	関連する小問集合、空所補充・選択問題
	単元全体から広く出題されるので、苦手な分野がないように、まずは教科書の内容を正しく理解することが大切です(すべての問題に共通)。高度な知識や計算能力を必要とする問題は出題されません。基本的・典型的な問題が中心ですが、基本事項を浅く理解するだけでは解けないような思考力を要する問題も出題されます。教科書の練習問題、章末問題、発展問題をきちんと解いて応用力を身につけておきましょう(すべての問題に共通)。因数分解は出題率が高いので、様々なパターンの問題を解いておきましょう。	用語や概念に関する正確な知識を身につけておくことが大切です。	基本的な定理については、応用問題が解けるところまで理解を深めておきましょう。小問を解いていくことによって、最終的な結果に誘導するような意図で作成された問題があります。意図をしっかりと考え、解く練習をしておきましょう。	2次関数の式からグラフを描けることが基本となります。さらに、2次関数の最大最小、グラフの移動、2次関数の決定、直線との共有点の問題などが出題されるので、繰り返し練習しておきましょう。
対策				
出題内容 と 概要	データの分析	場合の数・確率	図形の性質	整数の性質
	関連する小問集合、空所補充・選択問題	関連する小問集合、空所補充・選択問題	関連する小問集合、空所補充・選択問題	関連する小問集合、空所補充・選択問題
	定義と計算方法を確実に理解しておくことが大切です。グラフの読み取りについても問題も練習しておきましょう。	問題文を読み、その状況を正しくとらえる読解力が求められます。また、場合分けが必要な問題も出題されますので、筋道を立てて物事を考えることが必要です。日頃から暗記に頼ることなく、納得できるまで考えて理解する姿勢を保つことが必要です。	角の二等分線の性質、方べきの定理、メネラウスの定理などを使った平面図形についての計量問題が偏りなく出題されます。定理が応用できるようになるまで、練習問題を繰り返し解いておきましょう。	約数・倍数の問題、1次不定方程式の整数解などに関する問題が出題されます。出題されるのは基本的・典型的な問題ですが、発想力やセンスを必要とする分野になるため、典型問題を重点的に解いておくといでしょう。
対策				

生物	試験区分	マッチング入試(前期・中期)[基礎学力型] 公募制入試(前期・中期)[基礎学力型] 一般入試(前期)
	試験範囲	「生物基礎」 「生物基礎」「生物(生態と環境、生物の進化と系統を除く)」
	問題数(概数)	40問程度(大問4問)
出題内容と概要		対策
「生物基礎」については、生物と遺伝子(生物の特徴・遺伝子とそのはたらき)・生物の体内環境の維持(生物の体内環境)・生物の多様性と生態系を出題。また、「生物」については、生命現象と物質(細胞と分子、代謝、遺伝情報の発現)・生殖と発生・生物の環境応答(動物の反応と行動、植物の環境応答)の各領域より、空所補充・選択問題として出題。		<ul style="list-style-type: none"> 教科書の内容の基礎・基本を十分に理解しておきましょう。 表や図を読み解く力を身につけておきましょう。 以上のことを念頭に、授業ノートの復習を行うとともに問題集などで実践力をつけておきましょう。

化学	試験区分	一般入試(前期)
	試験範囲	「化学基礎」
	問題数(概数)	40問(大問2問)
出題内容と概要		対策
①化学基礎の物質の構成、物質の構成粒子、化学結合等に関する空所補充・選択問題を出題。 【出題内容詳細】 純物質と混合物、物質とその成分(化合物・単体・元素・同素体・炎色反応)、物質の熱運動と三態、原子の構造(電荷・質量・原子番号・同位体)、原子の電子配置、元素の周期表、イオン結合・金属結合・共有結合、電気陰性度と分子の極性		②化学基礎の物質質量と化学反応式、酸と塩基、酸化還元反応等に関する空所補充・選択問題を出題。 【出題内容詳細】 原子量・分子量・物質質量、化学反応式と量的関係、溶液の濃度と個体の溶解度、酸と塩基、水素イオン濃度とpH、中和反応と塩、酸化と還元、酸化剤と還元剤、金属の酸化還元反応、電池
化学の基礎である原子の構造、周期律表から物質質量、化学反応式、酸塩基、酸化還元、電池までの範囲を教科書を中心に学習しておきましょう。すべての分野から偏りなく基本的な問題が出題されるので、教科書を中心に授業ノートを整理しながら学習しましょう。教科書や問題集の例題を繰り返し復習して、基本的な問題が十分に解けるように対策しましょう。		